

平成27年度 食育に関する県民意識調査結果

石川県健康福祉部少子化対策監室

調査概要

1 調査目的

「第2次いしかわ食育推進計画」は、平成28年度が計画の最終年度となることから、本計画の評価、見直しを行うための基礎資料とするため、食育に関する県民意識調査を実施した。

2 調査対象者

- (1) 満20歳以上 2,000人
 - (2) 保育所等に通所する1歳児、3歳児、5歳児の保護者 各400人(計1,200人)
 - (3) 小学校2年生、4年生、6年生の保護者 各400人(計1,200人)
 - (4) 中学2年生、高校2年生 各400人(計800人)
- ※いずれも層化無作為抽出

3 調査期間

平成28年2月

4 調査方法

自己記入方式のアンケート調査。

上記(1)については郵送による配布・回収、(2)から(4)については保育所、学校等の協力により、配布・回収。

5 調査項目

- (1) 食育の関心度
- (2) 食育の周知度
- (3) 食育に関する意識
- (4) 食事状況について
- (5) 栄養バランスに配慮した食生活について
- (6) 生活習慣病等への意識
- (7) 食事のマナーや作法
- (8) 家族と一緒に食事をする「共食」
- (9) 体験型食育
- (10) 食品ロス
- (11) 郷土料理や伝統料理
- (12) 食品の安全性
- (13) 地産地消

6 有効回収数(回収率)

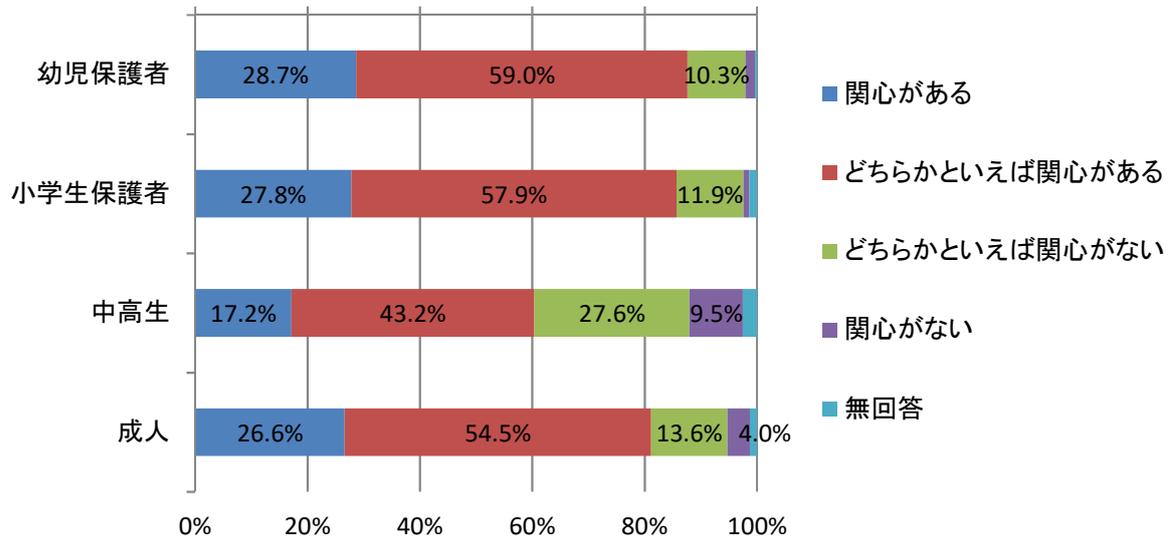
- (1) 満20歳以上 881人(44.1%)
- (2) 保育所等に通所する1歳児、3歳児、5歳児の保護者 1,114人(92.8%)
- (3) 小学校2年生、4年生、6年生の保護者 1,101人(91.8%)
- (4) 中学2年生、高校2年生 800人(100.0%)

調査結果（概要）

(1) 食育の関心度

図1 食育に関心があるか

幼児保護者、小学生保護者、成人において「食育に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた人の割合は約8割であった。中高生は、他の年代より少なく、約6割であった。

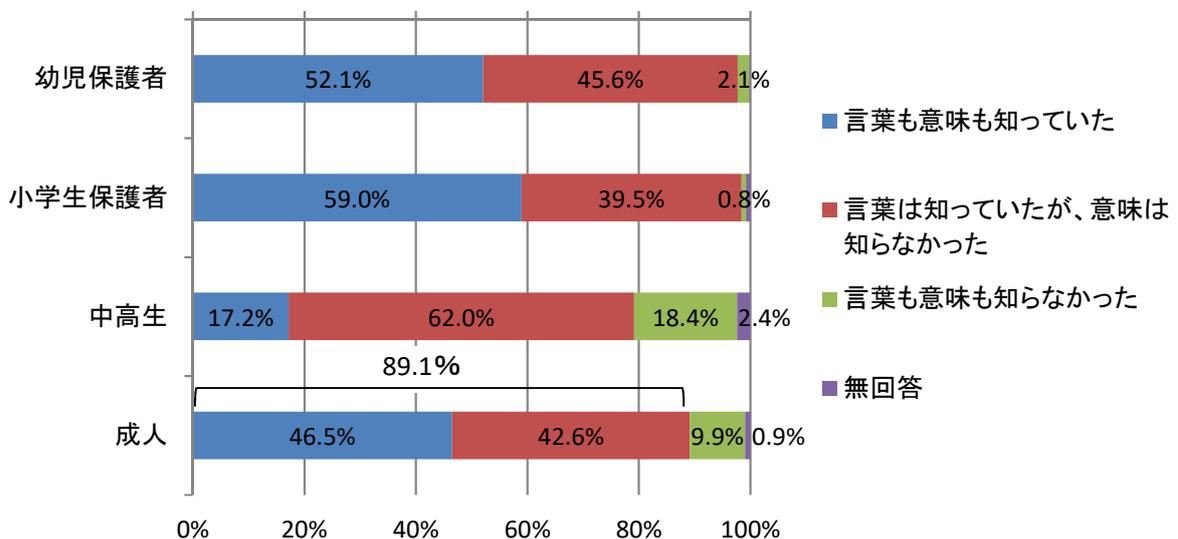


(2) 食育の周知度

※「食育」とは、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。

図2 食育という意味や言葉を知っているか

「言葉も意味も知っていた人」は、幼児保護者で52.1%、小学生保護者で59.0%、成人で46.5%であった。また、中高生では「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と回答した人が最も多く、62.0%であった。



(3) 食育に関する意識

健全な食生活を実践するために「参考にしているものがある」人は幼児保護者で62.5%、小学生保護者で64.2%、中高生で42.9%、成人で66.2%であった。

参考にしている指標では、「食品表示」を参考にしている人が最も多かった。

自分が得意なことで、地域や学校、保育所などで機会があれば手伝いたいと思うかという問いでは、「手伝いたい」、「将来的には手伝いたい」と答えた人は67.1%であった。

図3 健全な食生活を実践するために参考にしているもの

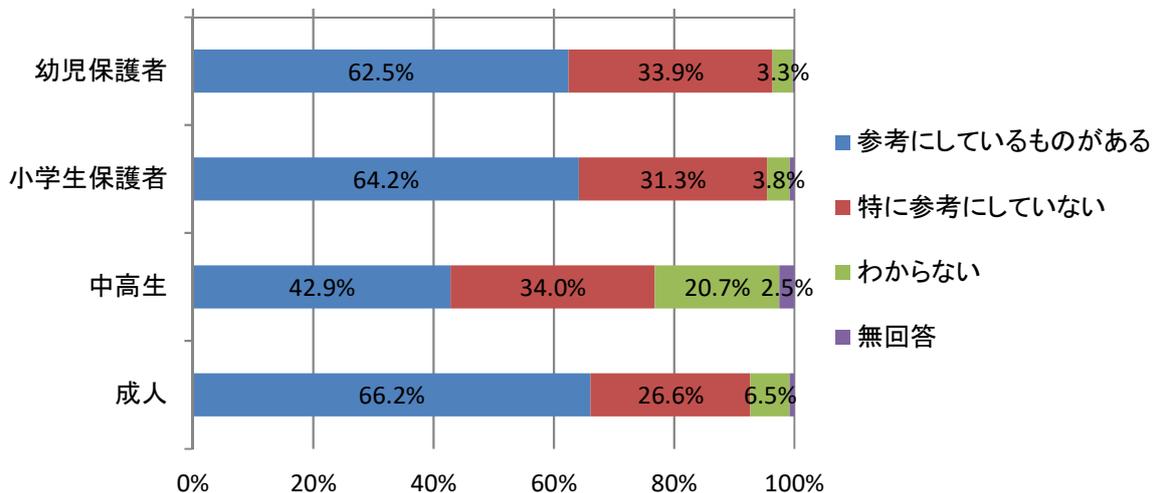


図4 参考にしている指標等[成人](複数回答)

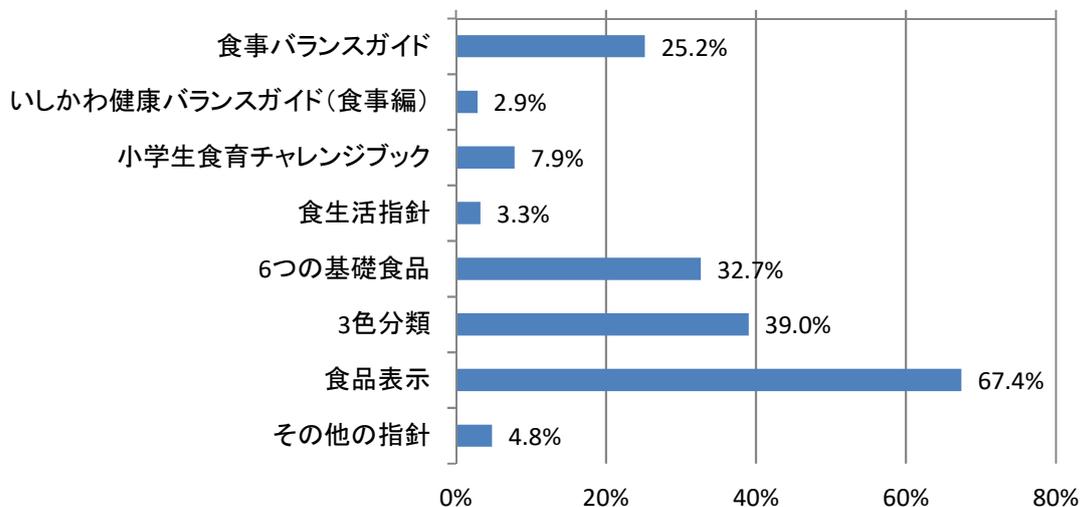
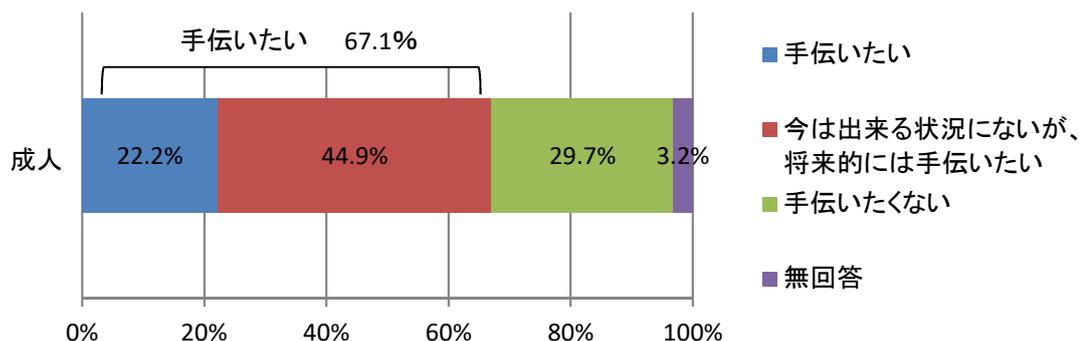


図5 自分が得意なことで、地域や学校、保育所などで機会があれば手伝いたいと思うか



(4) 食事状況について

幼児、小学生では、朝食を「ほとんど食べる」と回答した人が約95%であったが、中高生では89.5%、成人では86.6%と年齢が高くなるほど低くなっている。特に、成人では20代で朝食欠食率が高かった。中高生、成人の食べない理由としては、「時間がないから」が最も多かった。

図6 朝食を食べるか

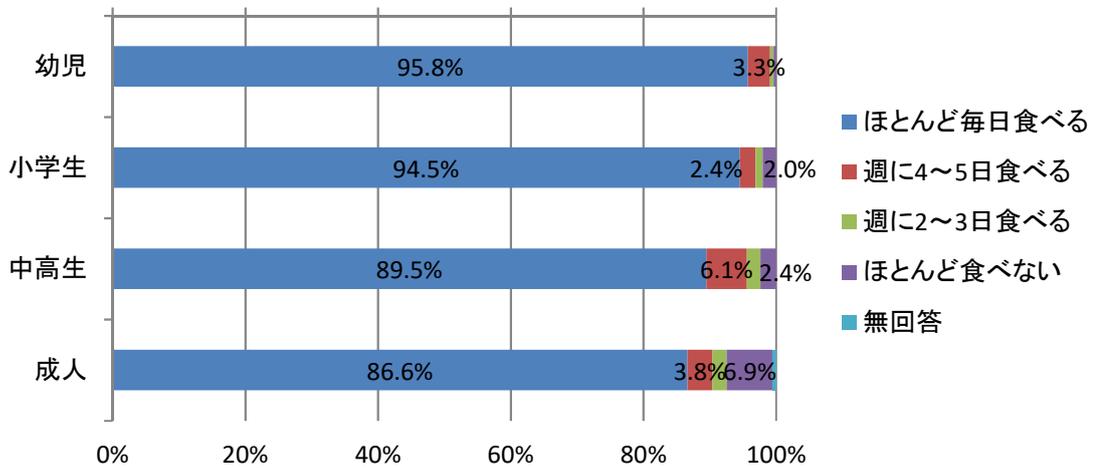


図7 朝食を食べるか〔成人 年代別〕

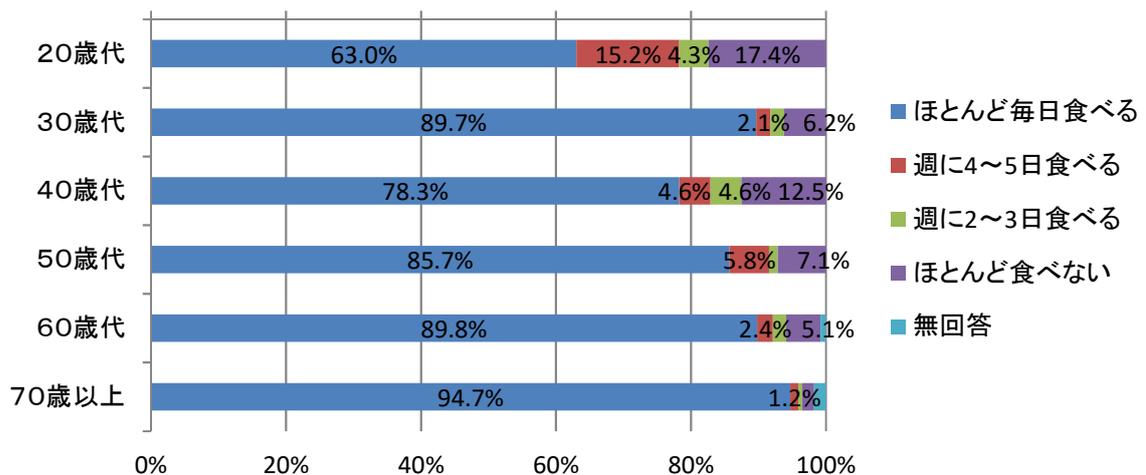


図8 朝食を食べない理由〔幼児・小学生〕(複数回答)

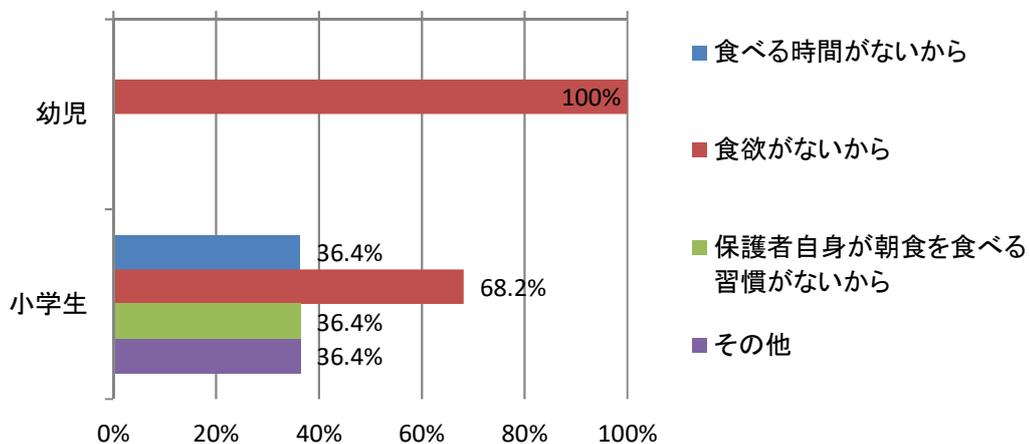
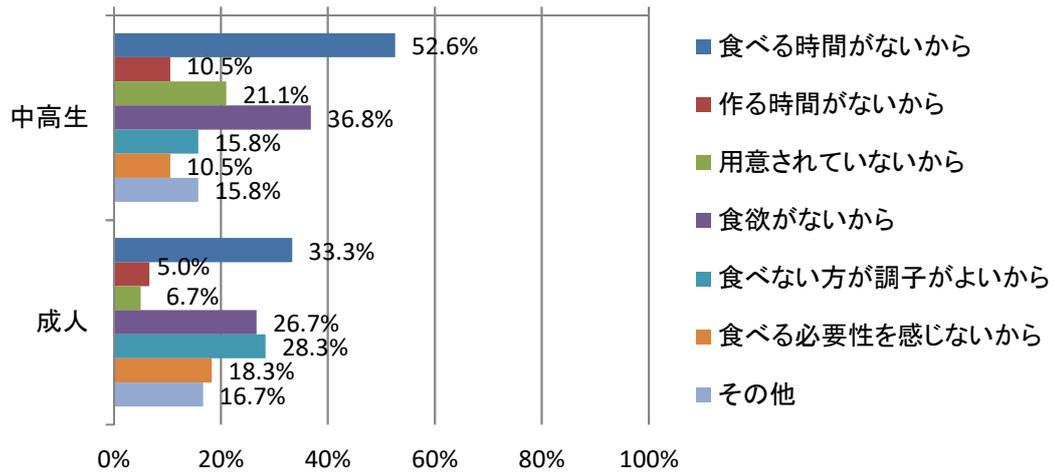


図9 朝食を食べない理由〔中高生・成人〕(複数回答)



(5) 栄養バランスに配慮した食生活について

栄養バランスのとれた食事(主食+主菜+副菜)をしている人は、幼児では65.5%、小学生では67.1%、中高生では60.5%、成人では72.9%であった。成人では、若い世代ほど栄養バランスのとれた食事をしている人の割合が低く、食べない理由としては「食べる時間がない」が最も多かった。

図10 一番多い食事の形態

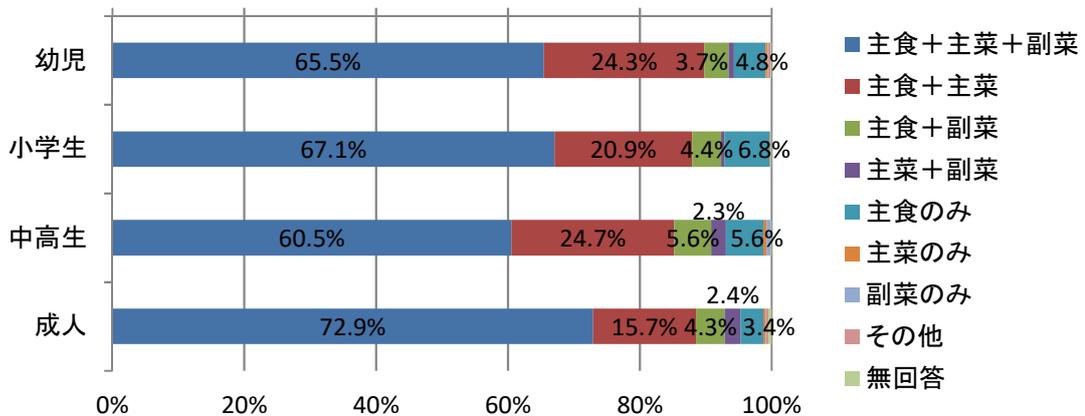


図11 一番多い食事の形態〔成人 年代別〕

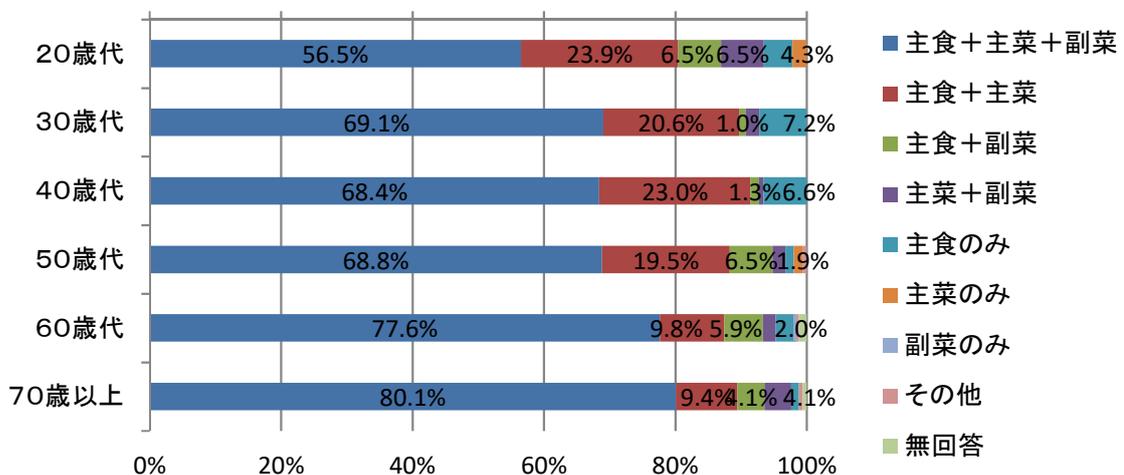


図12 主食・主菜・副菜を食べることが2回以上ある日が週に何回あるか〔成人 年代別〕

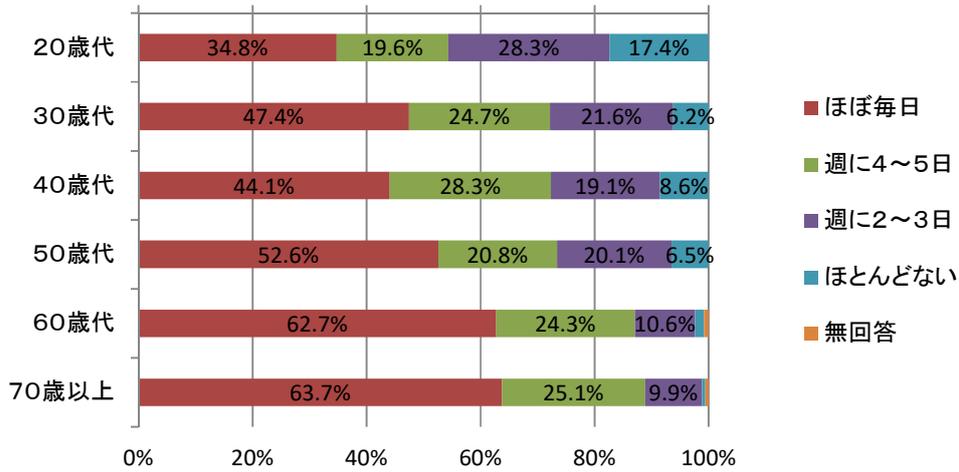
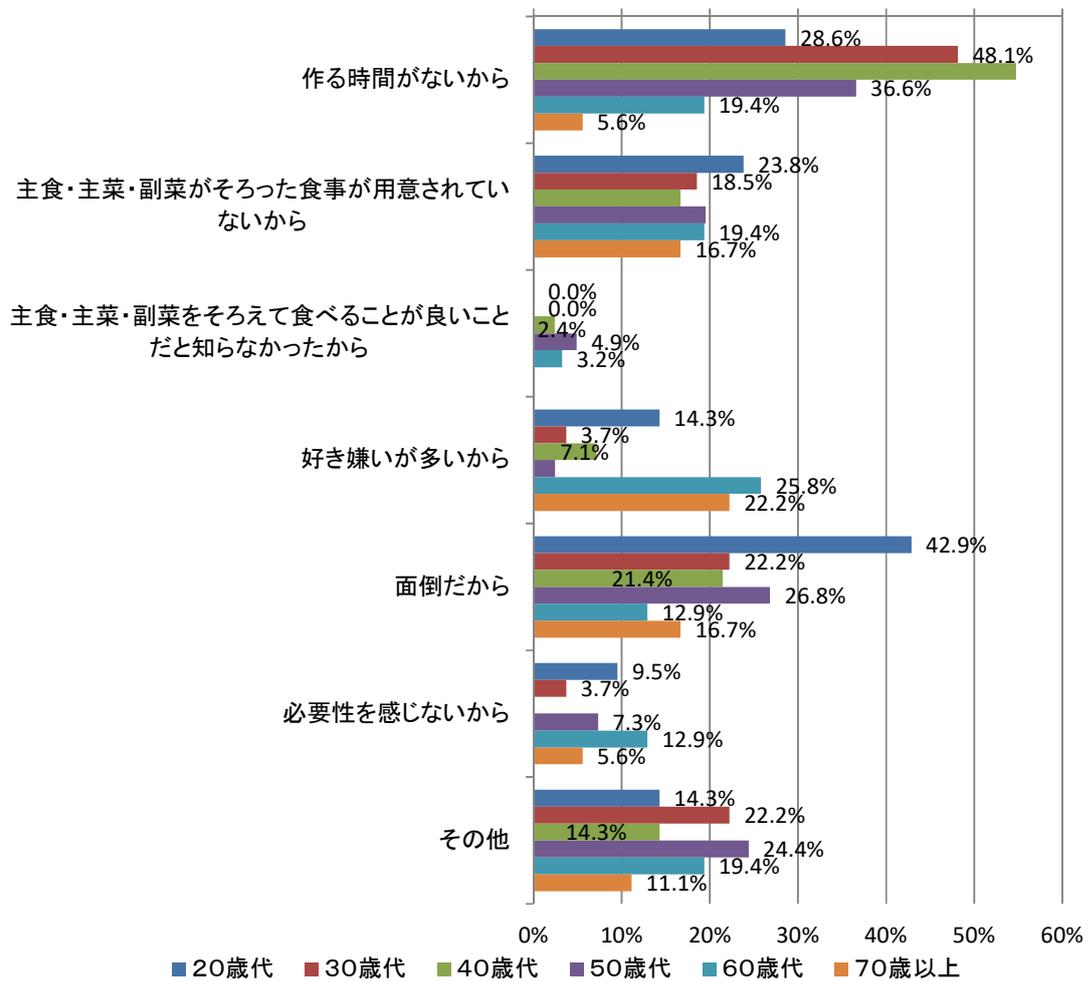


図13 主食・主菜・副菜をそろえて食べない理由〔成人 年代別〕(複数回答)



(6) 生活習慣病等への意識

生活習慣病の予防や改善のために食生活を気をつけている人は77.2%であった。
気をつけていない理由では、「面倒だから」が最も多かった。

図14 生活習慣病の予防や改善のために、気をつけた食生活を実践しているか

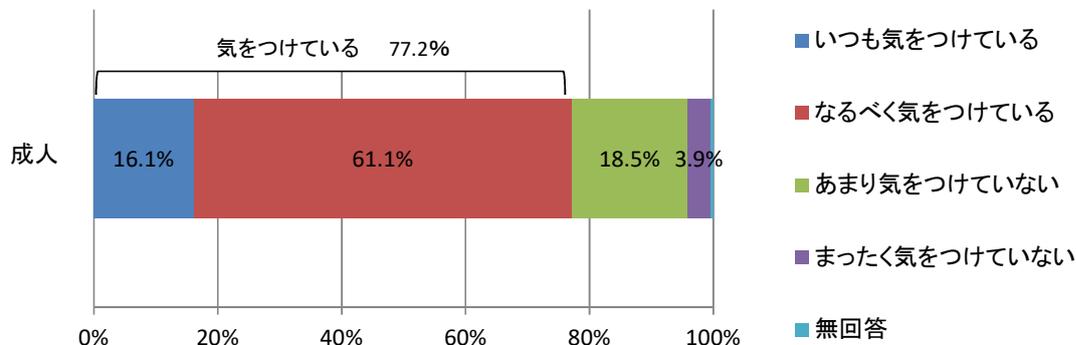
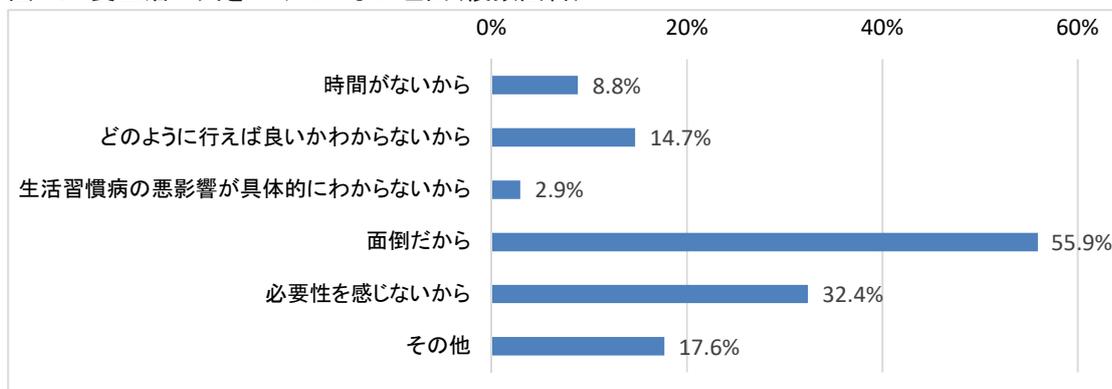


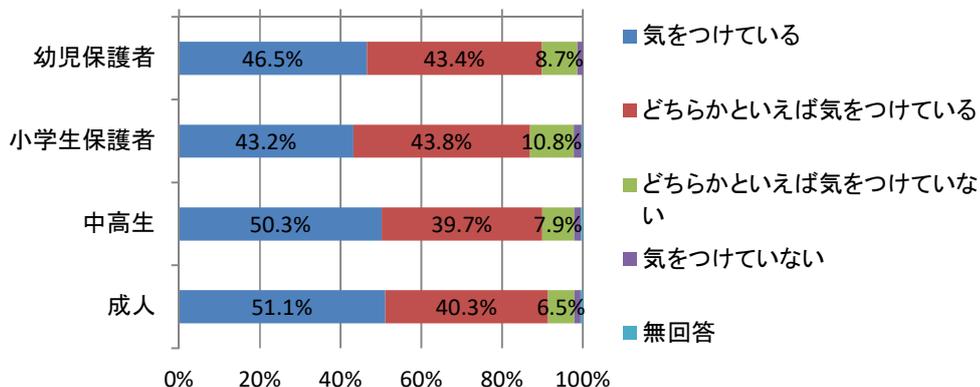
図15 食生活に気をつけていない理由(複数回答)



(7) 食事のマナーや作法

食事のマナーや作法を気をつけている人は、どの世代でも約90%であった。
食事のマナーや作法を気をつけない理由としては、幼児・小学生の保護者では、「子どもがいうことを聞かないから」が最も多く、中高生・成人では、「面倒だから」と回答した人が多かった。

図16 食事のマナーや作法に気をつけているか



(8) 家族と一緒に食事をする「共食」

朝食や夕食を家族とほとんど毎日一緒に食べる人は、幼児で86.7%、小学生で85.2%、中高生で56.8%、成人で60.1%であった。

家族と食べない理由では、どの世代でも「家族の時間が忙しく、時間が合わないから」が最も多かった。

図17 朝食や夕食を家族と一緒に食べることが、週に何日あるか

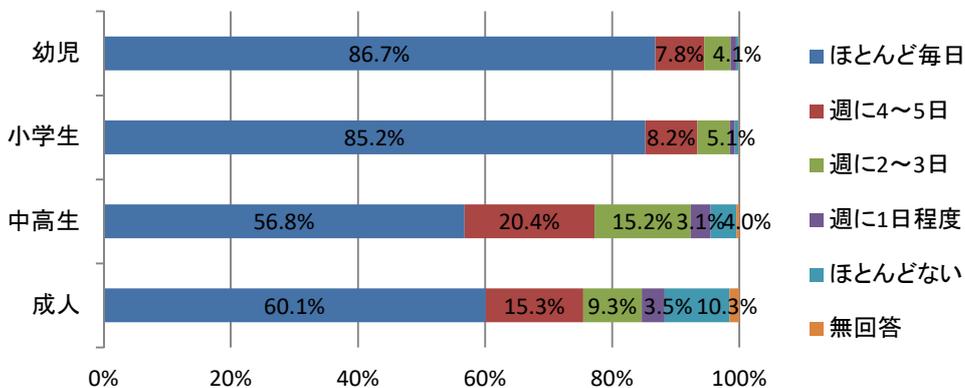


図18 家族と食べない理由〔幼児・小学生保護者〕(複数回答)

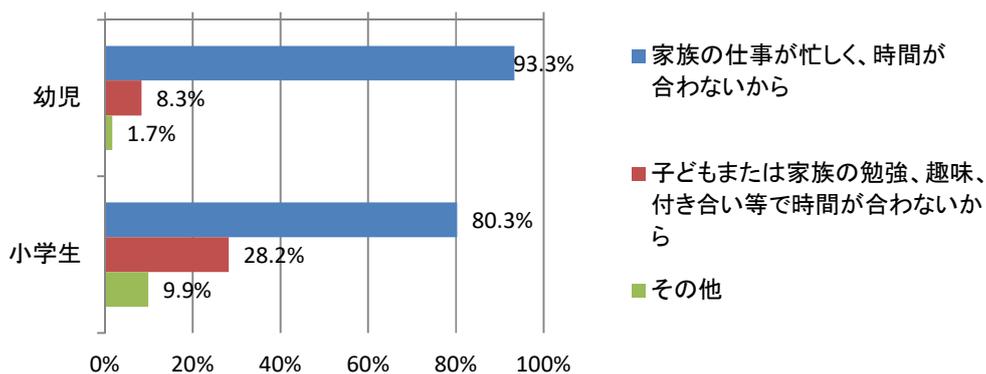
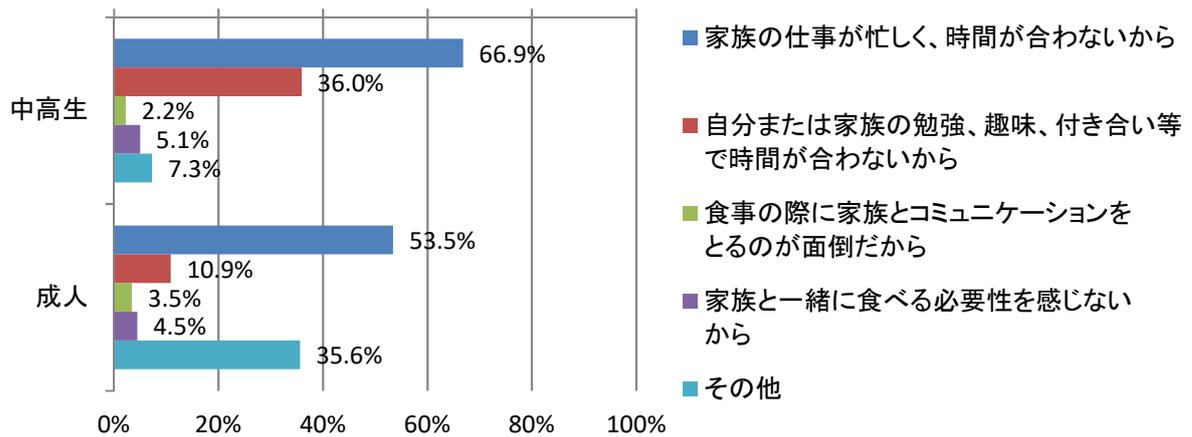


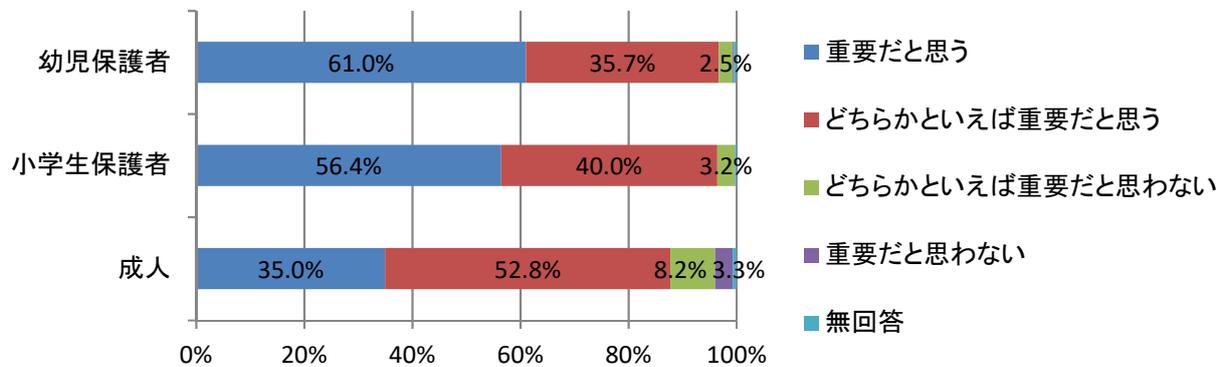
図19 家族と食べない理由[中高生・成人](複数回答)



(9) 体験型食育

食と農の体験については、幼児及び小学生の保護者で「重要だと思う」人の割合が高かった。

図20 食と農の体験をすることは重要だと思うか



(10) 食品ロス

食品ロスを減らすために取り組んでいる、どちらかといえば取り組んでいる人の割合は、幼児保護者で67.9%、小学生保護者で74.1%、中高生で68.0%、成人で最も高く81.1%であった。
 取り組んでいる内容では、「賞味期限を自分で判断する」が最も多かった。
 取り組んでいない理由としては、「食品ロスのことを知らなかったから」が最も多かった。

図21 食品ロスを減らすために意識して取り組んでいることはあるか

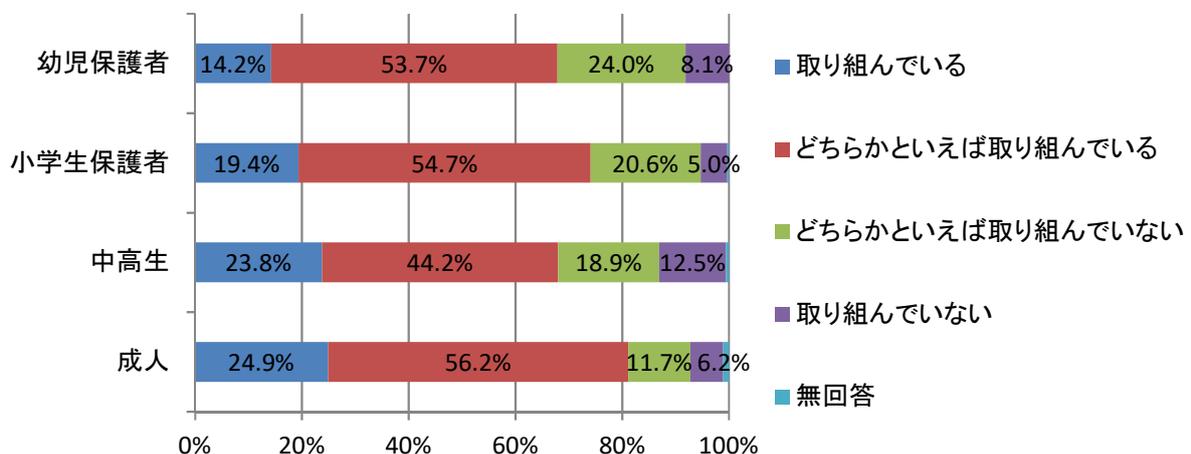


図22 どのようなことに取り組んでいるか〔成人〕(複数回答)

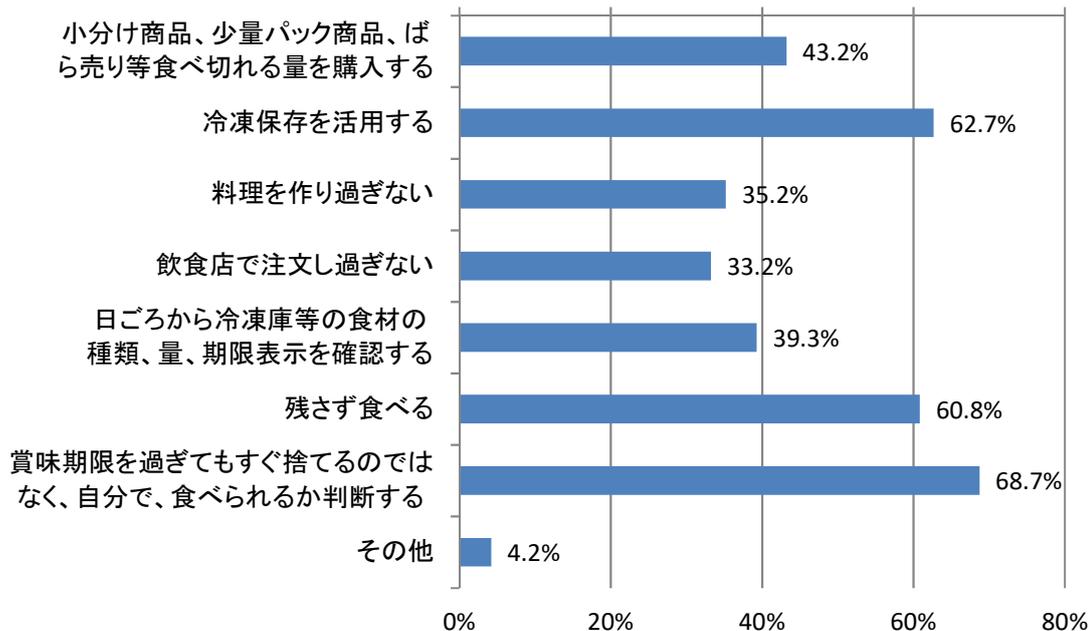
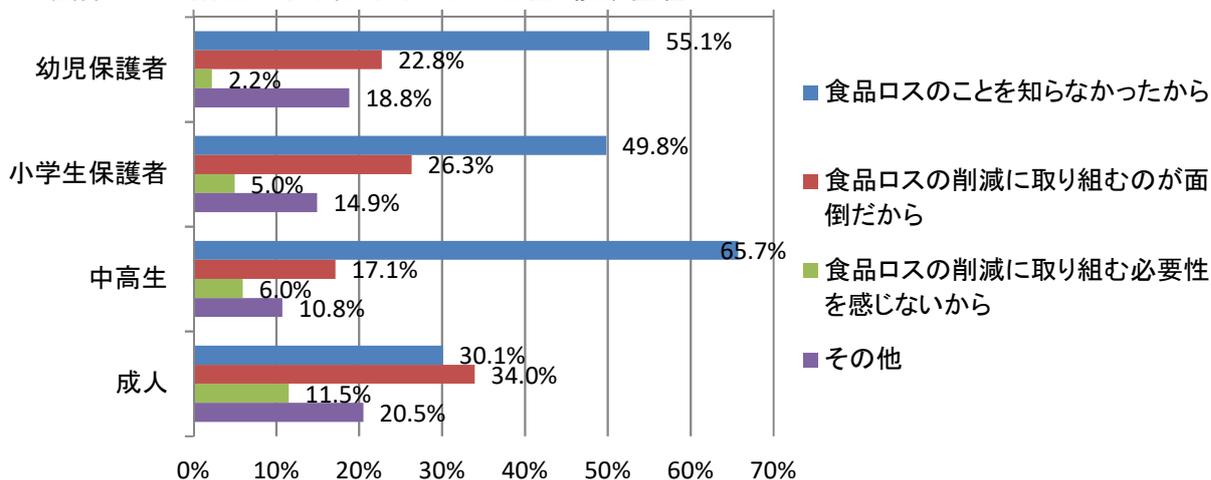


図23 食品ロスの削減に取り組んでいない理由(複数回答)



(11) 郷土料理や伝統料理

郷土料理や伝統料理を食べている、どちらかといえば食べている人の割合は、幼児・小学生保護者、中高生では約50%、成人では65.3%であった。食べていない理由では、「食べる機会がない」と回答した人が多かった。

図24 郷土料理や伝統料理など地域や家庭で受け継がれてきた料理を食べているか

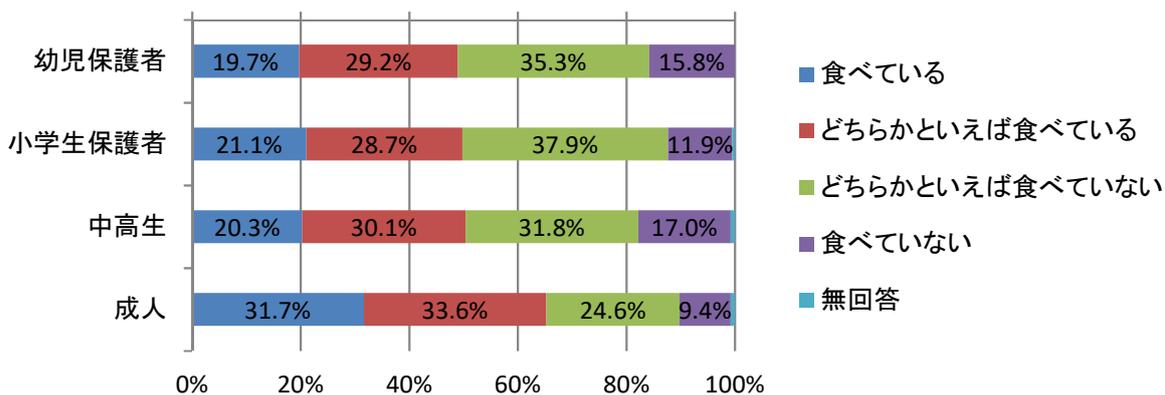
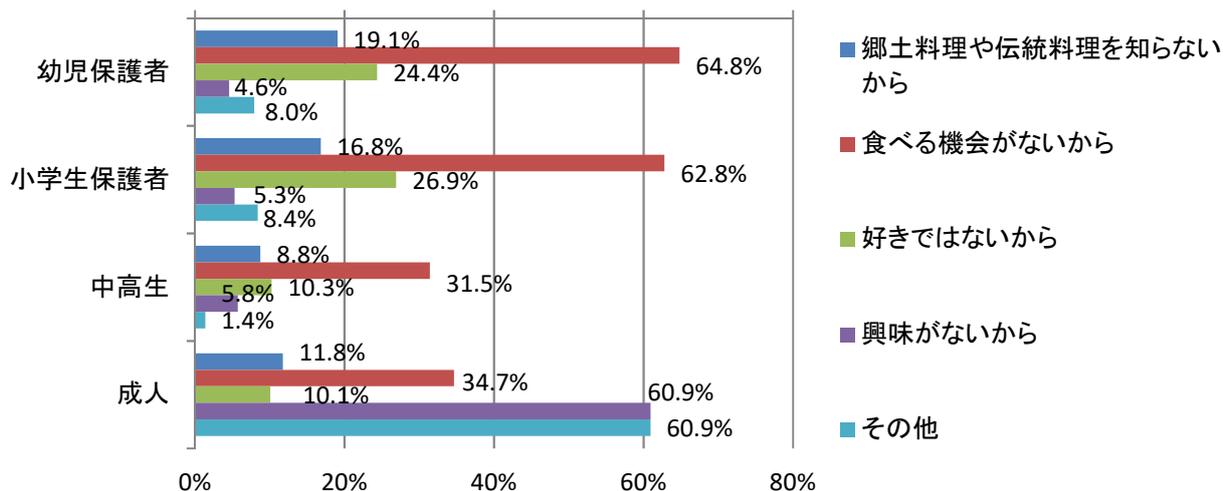


図25 郷土料理や伝統料理を食べていない理由(複数回答)



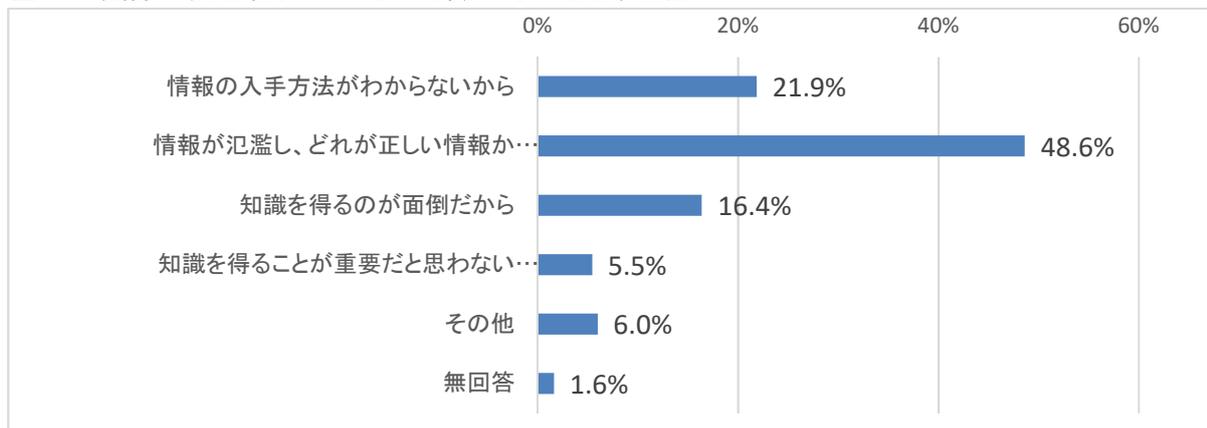
(12) 食品の安全性

食品の安全性についての知識が十分にあると思う、ある程度あると思う人の割合は、幼児・小学生保護者、成人で約80%、中高生では68.2%であった。知識がないと思う理由では、「情報が氾濫し、正しい情報がわからない」と回答した人が最も多かった。

図26 食品の安全性についての知識があると思うか



図27 食品の安全性についての知識がないと思う理由



(13) 地産地消

地元や県産の食材を意識して使用している人の割合は、約70%であった。
 地元や県産の食材を使用することについては、どの世代でも約90%の人が「重要だ
 と思う」と回答した。

図28 地元や県産の食材を使用しているか

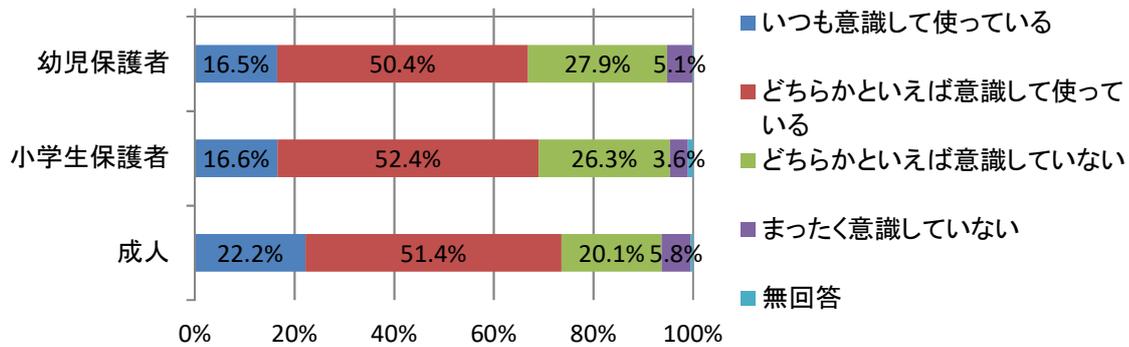


図29 地元や県産の食材を使用することは重要だと思うか

